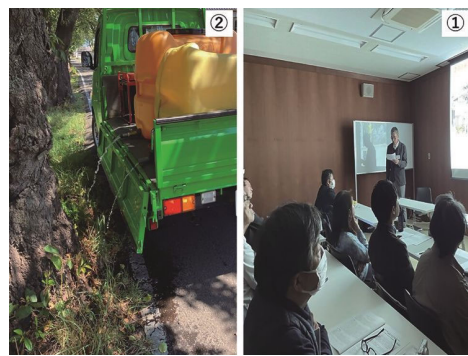


筆者は「日本櫻学会（以下「学会」）の新入会員です。町の樹木医に委嘱されたあとに入会しました。なぜかという、学会では会誌「櫻の科学」を刊行していて、有識者で構成される編集委員会が原稿が受理されると、学界（学者の社会）で認められたことになり、注目されやすくなります。ここに投稿すれば名所地の発信になり町の桜の裾野を広げられると考えたのです。

そこで昨年は、人工交配で作り、一般公募で「おおがわ千年桜」と名付けられた新品種に着目しました。地方紙などで発信中でしたが、さらに箔をつけようと、町、品種認定者の専門家との共同執筆で昨年9月に学会に投稿しました。何とか受理され、「櫻の科学25号」に掲載されました。現在、全国書誌データが集まる国立国会図書館や大学などで本資料を検索・閲覧できるようにになっており、広く発信できていると思われまふ。11月には「神代曙」という桜の原木があることでも有名な神代植物園を会場に研究発表会が催され、全国の会員が一堂に会する中で発表し、周知していただきました（写真①）。

今年、品種ではないのですが、最近、駅前の尾形橋付近の桜に異常気象が原



第52回 桜の名所を樹木医的にPR



町内在住の樹木医

尾形政幸先生の花は桜木



因と思われる早期落葉が目立って現れ、今年はその原因調査と水タンク車による試験灌水（写真②）を重点的に行っていました。そこで、『白石川堤一目千本桜』における『染井吉野』の早期落葉の原因解明と対処法の検討」と題して、途中経過をまとめ、同じように投稿したところです。今月15日には口頭での研究発表会があり、現在、準備中です。

樹齢100年を超す大河原町の桜はどれもが腐朽していてハイリスク桜と化していますが、実は、再生法を含めて全国的な課題なのです。これらの課題を見識者間で共有していただき意見交換の場になれば、と考えています。

さつまいもの ギリシャヨーグルトかけ

材 料(2人分)

- ・さつまいも……………150 g
- ・たまねぎ……………30 g
- ・ギリシャヨーグルト…大さじ3
- ・塩……………0.9 g
- ・こしょう……………0.5 g

作 り 方

- ① さつまいもは一口大に切り、水につけてから蒸し器でやわらかくなるまで蒸し、冷ます。
- ② たまねぎは繊維にそって薄切りにし、水にさらしてしぼる。
- ③ ギリシャヨーグルトに塩こしょうをし、①と②をまぜたものにかける。



写真は1人分

【ひとり分栄養価】

エネルギー：110Kcal 塩分：0.5 g

調理担当 ヘルスメイトからの一言

食物繊維が豊富なさつまいもと腸のぜん動運動を活発にしてくれるヨーグルトの組み合わせは腸活に効果的なメニューです。

高橋 悦子(上谷1区)



「おおがわ」食でなくむこころとからだ
大河原町食育スローガン

おいしく食べよう朝ごはん
奥歯でよく噛み味わいながら
家族で野菜のおかずを一皿増やし
我が家(町)の食を伝えよう
らくらく(楽々)みんなで食育推進

町長コラム Mayor's Column

さくら並木

『米騒動』や『地方創生』に見る地方と都市の意識のギャップ。

～町村の現状認識と求められる自立に向けた共創への挑戦～

大河原町長 齋 清志

来る11月19日に、NHKホールを会場に『全国町村長大会』が内閣総理大臣をお迎えして(予定)開催されます。先日、この大会で発表する大会決議や重点要望を決定する理事会(町村会長会議)に出席してまいりました。我々町村長は、国と地方の信頼関係の下、改めて総意をもって自主的・自立的に施策を展開する決意を共有したところです。

全国町村会には、行政・財務・経済農林の3つの政務委員会があり、私は経済農林委員会の副委員長を務めています。この委員会の中で、委員長(福井県会長)から出された提案に基づいて活発な議論がなされました。具体的には、いわゆる『米騒動』の米価格・生産・流通の議論だけで終わっては農業の持続的な発展や農村振興の確立につながらないのではないかと発言し、全委員の意見や考え方を聞きたいとのことでした。

詳しい意見の紹介は、この紙面ではかきませんが、私の目頃から感じている受け止めについて発言させていただきました。宮城県や本町の現状に触れた後、果たして都市に暮らす人達は、農業の持つ重要な役割や農業の持続的な発展の価値について正しい理解や共感を持っているの

でしようか! 国への働きかけと共に、地方と都市の共創意識の醸成にもっと目を向けるべきではないかとし、地方創生に通じる視点にも触れながら発言させていただきました。最後の発言者でしたが、問題提起にはなつたと感じています。

全体的なまとめとしては、地方創生から10年が経過し、改めて農山漁村地域を多く抱える町村からは、人口減少・働き手不足等の厳しい悲鳴が聞かれました。一方、町村は、文化・伝統の継承や食料の供給、国土保全や脱炭素社会への貢献等重要な役割を担っているとの声も上がりました。全国町村会では、これまでも地方と都市の共創の必要性や地方創生の実現を訴え続けてきましたが、残念ながら一極集中の是正には至らず、国土分散型の国づくりも実現していないとの総括でした。

また、地方における財政力の違い等による地域間格差の拡大が深刻な問題となっています。人口減少が大きな要因ですが、若者や女性に選ばれる地域づくりの実現が強く求められています。受け止める場所です。

対策としては、産業の地方分散や所得格差の縮小が不可欠であり、稼げる産業の育成が重要です。農業で言

源の活用による地場産業の付加価値を高める工夫が大切です。この10年の振り返りをもとに、多様化する価値観を受け入れて、官民が連携しながら自立し発展する町でありたいと改めて強く感じたところです。

しかしながら、『地方こそ成長の主役』『地方あつての国』という意識については、やはり地方と都市に大きなギャップがあると思えてなりません。この意識の差を乗り越える術として、都市からの移住や交流の促進、多様な地域資源とデジタル技術を活用したイノベーションの推進、ヒト・モノ・カネ・情報の対流促進等が掲げられています。本町としても、積極的かつ先進的に挑戦し続けてまいる所存です。

(10月17日記)

